履修生を共通教育等の後に決める方法を取っている農業農村工学系教育プログラムにおける関心の引き方
九州大学農学部の事例紹介

凌　祥之*

1.　背景と目的

農業農村工学を専門とする教育組織では，どこでも良質な学生（履修生）の確保に苦労されていると思う．如何に優秀な人材を確保し，彼ら，彼女たちに有益な知識を提供し，社会を支える優秀な人材になってもらうかは，教員にとっては最重要課題の一つである．教員側も様々でたゆまぬ努力を続けているはずであるが，なかなか功を奏していない嫌いがある．ここでは，九州大学農学部で我々教員が前述の目的のために努力している事例を紹介しながら，更なる優秀な人材の確保につながるアイデアが出たり，情報を共有できる契機になればと思っている．

2.　教育プログラムの対応

九州大学農学部は，学部で一括入試を行い，1 年半の基幹（教養）教育後，2 年次前期に専門教育コースに配属が決められ，2 年時後期（秋学期）から専門教育を行っている．ここでは，主に 2 年次，進級前までの期間に教員が在校生に取っている行動を主体に，入学以前と以降，進級前，後までの行動を紹介する．なお九州大学農学部では，旧農業土木関係の 3 研究分野（室）に土壌学と農業気象，環境調節の 2 研究室が参画し，「生物生産環境工学」分野を構成しており，現時点の農業土木プログラムを推進している．

（1）　入学前

大学入学以前の高校生を対象に，毎年夏休み時に，1 日間オープンキャンパスを執り行い，学生が主体で，高校生に研究概要の紹介などを行っている．更に，当該分野独自の取り組みとして，高校生を対象に出前講義を開催し，教員が主体で当該分野に関する研究活動の一部を高校生に実体験させている．毎年 20 名ほどの高校生が参加し，その中の何名かは実際，当該学部，分野に進学してくれている．

（2）1～2 年次前期

a.　講義；基幹教育科目の「農学入門」講義において，2 コマの講義が当該分野に割り当てられており，その中の 1 コマにおいて，当該研究分野の概要紹介の中で JABEE プログラムについても紹介している．

また選択科目の中で，主に教員が提案するフロンティア科目があり（1 年次～2 年次前期），当該研究分野に関する科目が 3 種あり，当該研究分野の研究概要などを紹介している．当該科目は全学部生が対象ではあるが，タイトルを工夫するなどして主に農学部の学生が選択，受講し易いように工夫している．

九州大学大学院農学研究院，Yoshiyuki Shinogi, How did we attract lower grade student to our JABEE education program, Case study report from Kyushu University.

b.　進級ガイダンス;進級予定者を対象に2年時5月に開催される研究分野のガイダンスには，研究分野の代表教員が進学予定学生に研究分野の概要紹介をし，更に日を改めて先輩学生からも概要説明をさせている．先輩学生からの生活面や研究室の雰囲気など，気取らない紹介が若年時の学生には好評のようであり，進級先の選定に大きな影響を及ぼしていることが分かってきている．

c.　研究室訪問；昨年度からの新たな取り組みで（キャンパスの移転が完了したこともある），12 月に 1 年生に全研究室を訪問させる機会を作った（数時間程度）．1 年生は限られた時間の中で，希望の研究分野を訪問し，研究室の雰囲気などを実際に視察し，先輩などから様々な情報を得ていた．

(3)　進級以降

2 年次夏学期までに，進学希望調書を提出し，後期直前に成績に準じて各研究分野に配属先が決定される．

a.　講義開始前；進級式直後に進級ガイダンスを行い，JABEE 教育を含めた概要を再度説明する．その折に進級学生に対して，進路の決定に関するプロセスや動機などを調べるアンケート調査を行う．調査結果は分野内の全教員に共有され，活動全体の評価や振り返りを「分野を考える会（後述）」などを通じて行っている．

b.講義；「生物生産環境工学概論」講義の冒頭で，当該分野の「農業土木 JABEE プログラム」の概要について詳細な説明を行う．

その他，JABEE 教育の適正な推進のために，外部評価委員会を有しており，外部からの指導やコメントも適切に，教育プログラムに反映させている．若年層の効率的な取り組みに関して助言を拝聴し，それらは教員のプログラムの筆頭けん引組織である「分野を考える会」で共有され，対応についても協議されている．

3.　まとめ

九州大学でも優秀な学生に来ていただくための様々な活動を継続して行っている．しかしその成果が着実に実を結んでいるとは言えない状況であり，毎年第 1 志望学生が定員を下回り，減員を食らっている状況である．なかなか上手く広報ができていない反省をしながら，様々な活動を変化させている．

厳しい状況が続く中で，大学だけでなく，就職先を含む学会全体を通じた適切で様々な活動も望まれる．例えば，低学年の学生に対して，当該分野に関する明るい未来や夢を語るような場の設定なども必要であろうし，若手の意見が即座に反映されるような雰囲気作りなども必要と思われる．

当該報告を取りまとめるに当たり，平松和昭九州大学農業土木 JABBE プログラム責任者から様々な助言を頂いた．記して謝意を表します．